

「まさか感染しないだろう」でいい？

「二、三年生の朝のマスク着用率が気になります。熱中症予防とは思いますが……心配です。」

中山教頭がこのように話していました。感染症予防と熱中症予防、どちらも生徒の皆さんの命や体を脅かす脅威です。熱中症は暑さという形で肌を感じる事ができる分だけ、「予防しなければ」という意識が働くのかもしれない。しかし、感染症は、危機が迫っていることを情報として知るだけなので、「予防しなければ」という意識には強く結びついていないようです。

生徒のみなさんに心にとめてほしいことが二つあります。一つは、感染症の原因であるウイルスは、目に見えないですし、肌で感じることもないということです。

熱中症は「暑いなあ」と感じる時がほとんどです。暑さ指数としても目や耳でその値を確かめることができます。しかし、ウイルスは目には見えません。肌で感じることもありません。それが熱中症とは違う脅威です。だからこそ、予防がより大切になってくるのです。

人間が意識できる中で迫ってくるのが熱中症であり、意識できない中で迫ってくるのが感染症であることを忘れてはなりません。

心にとめておいてほしいことの二つ目は、現状をしっかりと見極めてほしいということです。

昨年度末から休校が始まり、一時は収束の兆しを見せましたが、再び感染が拡大しています。約半年間、新型コロナウイルス感染症に世間が振り回されています。

この間、北中の関係者に一人も感染者が出ていないので、生徒のみなさんには「まさか感染しないだろう」という意識が少しずつ生まれているように私には思えます。つまり、危機が迫っているにもかかわらず、自分の身のまわりではその危機を目の当たりにしていないので安心しているかのようです。冷静に状況を理解してください。騒がれた当初、確かに瑞浪市には感染者がいませんでした。しかし、今では九名の感染者が出ています。東濃五市の中に感染者が出ていない市はなくになりました。東濃地区の高校、小学校でも感染者が出ている現状です。

こう考えると、登下校時にマスクをしないことは、常識だと考えざるを得ません。多少暑さを感じても、今の状況ではマスクはすべきです。どうしても暑さで苦しいというなら一人で登校すべきではないでしょうか。危機から身を守るのは、あなた自身の判断です。

(八月七日 記)